

このごろ思うこと

愛知県退職校長会 副会長 山内 満

☆ 八十四年ぶりの快挙

十月早々の、米大リーグ・イチロー選手の大記録達成のニュースは、今年のスポーツシーズンを締め括るに相応しい朗報であった。

不滅の記録といわれ、これを破ることは野球選手の「夢」でもあった米大リーグ年間最多安打記録を、日本人選手が八十四年ぶりに更新したことは、日本中の人たちが心からの祝福を贈ったと思う。

イチロー選手が夢の金字塔を打ち建てるのが出来たのも、拔群の野球センスに加えて、人一倍研究熱心であったといわれている。「努力すれば報われる」の言葉を現実のものとし、多くの人の「夢」を叶えてくれた偉大な功労者といえる。野球にあまり関心のない子どもでも「イチロー」の名前は知っている。

「夢」を持たない子どもたちが多くなっている昨今、こんな身近なところに存在する「夢」を紹介してやるのも、私たち大人の務めかも知れない。

☆ 気になることは

七月三十日の中日新聞に、文化庁の日本語に関する世論調査の記事が載っていた。「げきを飛ばす」「姑息(こそく)」「ぶぜん」等の慣用語について七十%前後の人たちが本来の意味とは異なる意味で理解しているとあった。

「げきを飛ばす」についてみると、本来の「自分の主張や考えを広く人々に知らせて同意を求める」とした人はわずか十五%で、「元気のない者に刺激を与えて活気付けること」と答えた人は実に七四%に達するという。

同じ世論調査の「日常の言葉遣い」では、若者言葉使用が徐々にほかの世代にも浸透していることを取り上げている。

「腹が立つ」の代わりに「むかつく」を使う人が年令に関係なく回答者全体の四八%で、二十代までに限ると九十%超となる。

「とても……」を「チョー……」とというのは全体の二一%だが、二十代までに限ると五十%以上になるという。

TV、ラジオを通して耳に入ることはの影響は大きい。学校の努力が及ぶエリアにも限界があり、考えさせられたことである。

全連退総会に参加して

愛知県退職校長会 副会長 吉田 俊彦

平成十六年度全国連合退職校長会総会が、去る六月十七日、江戸東京博物館において開催された。愛知県からは、全連退理事・県会長の三林貞夫先生、県副会長の松下茂先生、山内満先生と私の四名が出席した。土橋荘司全連退会長は、教育基本法の見直し、教育憲章や教育の日の制定、退職校長会の「綱領」の作成への努力、道徳教育の徹底等について国民的運動の中で展開していきたいと挨拶された。

来賓の文部科学省大臣官房総括の玉井日出夫氏が義務教育国庫負担制度、確かな学力と豊かな心の育成、教育基本法の改訂等の当面の課題について明解に説かれ、得るところ大であった。

総会では、十五年度の事業と決算報告、十六年度の事業が中心に審議され、特に本年度は全連退設立四十周年ということで記念行事が十月十六日に行われると報告された。なお、会則の一部改訂については、後刻修正が行われることになった。

この席で、前県会長の太田弘先生が全連退より、その功績に対して感謝状を授賞されました。誠におめでとうございました。

全連退

東海北陸地区協議会に参加して

愛知県退職校長会常任理事 内田 久幸

全連退創立四十周年という記念すべき年。土橋莊司会長ご臨席のもと、活力溢れる富山の地で、十月四日・五日に開催された。東陸協議会では、まず、『組織の活性化』について話し合わせ、各県の意欲的な取り組みが報告された。開催県の富山では、年間三回、十ページの会報「高志路」を発刊し、会員相互の連携を密にしているとの報告。また三重県では、県下二十二支部へ、会員一人に四百円の助成を行い、支部活動の活発化に努めると共に、現職校長会との情報交換を行い、関係を深めているとの報告があった。

次に、『教育の日』制定について協議されたが、東陸地区では遅々として進んでいない状況である。岐阜県や福井県では、『教育週間』や『家庭の日』を設定し、各学校で展開される多彩な行事に参加したり、支援活動をし、教育の日制定を呼びかけているとの報告。今後も、『教育尊重世論の喚起』と『教育支援』に全力を注いでいくことの必要性を確認し合い閉会した。

二日目は、富山県が誇る「水墨美術館」で、『高山辰雄―墨色の世界展』を鑑賞し、生きて在ることの哀しみと優しさに接し散会した。

生き生きライフ

即効性の整体に生き甲斐

平成十四年度入会 尾藤 壽伸

「ありがとうございます。」

先程まで腰の痛みに顔をゆがめていた患者さんが笑顔になっています。背すじもシャンと伸ばしています。

この回復までの即効性が整体の良さであり、自分の施術結果が患者の笑顔で判断できる『即効性』は、私の生き甲斐になります。

三十八年の教職生活で染み付いたマニエアル性は、退職した当初、何をしたらよいか分からないという無気力さを生みつけました。そんな時、思い出したのが整体でした。三十年前、大変難儀をしたギックリ腰でしたが、腰を矯正してもらったことで治りました。

この時の印象を胸に名古屋の整体学院へ入学し、毎日、作手村から通学しました。施術の実習パートナーが女性の時は腕が震えてしまい、大変困りました。これは教育の世界では女性の体に触れるということが無いためのトラウマだったのでしょうか。

しかし、一か月も通学すると、このトラウマも薄らぎ、同時に同級生達のやる気に満ちた態度につられていて自分

づきました。

二十歳代の若い同級生達は、講義や実習を真剣な眼差しで受けており、どんな吸収しているようでした。自身が伸びようとしている時の勢いに若さという活力も加わり、私の毎日の通学は、彼らに感化されて、毎日に楽しさを増していくのでした。

今は学院を卒業し、念願の整体師となり、新しい日々を送っています。在学時にやる気に満ちた力にふれることができ、二つの快い即効性を持つ整体を通して、私の毎日の生活は、生き甲斐を感じるものとなりました。

今日も整体の勉強と施術の確かさを求めながら、笑顔が見られるよう頑張っています。

あとがき

退職校長会『会報』第11号ができてあがりましたので、お送りします。

今後の予定

一月十三日(木) 役員選考委員会
三月 三日(木) 正副会長・常任理事会
会計監査会
三月十七日(木) 総会

愛知県退職校長会事務局
名古屋市中区新栄一丁目四九の一〇
愛知県教育会館六階
愛知県小中学校長会事務局内
電話番号〇五二―二六―一八―一五二